

2015年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	有機化学I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	必修科目(バイオサイエンスコース)／必修科目(食品生物資源コース)／必修科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	松本 幸三						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結合に関与する価電子を理解し、イオン結合、共有結合等を自由に書ける。</li> <li>・アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物が命名でき、その構造が書ける。</li> <li>・アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物の基本的性質が説明できる。</li> <li>・アルケン、アルキン、芳香族化合物への求電子付加反応を理解し、反応式が書ける。</li> <li>・有機化合物を立体的にとらえてその性質を説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	<p>4/14：授業の進め方と概要、成績評価法、有機化学とは何かについて説明。</p> <p>4/21：原子の電子配置、イオン結合、共有結合、多重結合、原子価。</p> <p>4/28：構造異性、形式電荷、共鳴、化学反応における矢印の意味。</p> <p>5/9：結合の軌道論的な考え方、炭素原子の混成軌道。</p> <p>5/12：アルカンのIUPAC命名法、アルカンの性質、アルカンの立体配座。</p> <p>5/19：シクロアルカンのIUPAC命名法、シクロアルカンの立体配座、cis-trans異性。</p> <p>5/26：結合と構造異性、アルカンの演習。</p> <p>6/2：アルケン、アルキンの命名法、アルケンの構造と軌道、cis-trans異性。</p> <p>6/9：アルケンへの求電子付加反応とその反応機構。</p> <p>6/16：アルケンへの付加反応の過程。</p> <p>6/23：アルキンの構造と軌道、付加反応。</p> <p>6/30：芳香族化合物、ベンゼンについて。</p> <p>7/7：芳香族化合物における求電子置換反応。</p> <p>7/14：立体化学</p> <p>7/21：アルケン、アルキン、芳香族化合物、立体化学の演習。</p> <p>7/28：定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題						
	演習	40%	計			100%	
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結合に関与する価電子を理解し、イオン結合、共有結合等を自由に書ける。 達成した。</li> <li>・アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物が命名でき、その構造が書ける。 達成した。</li> <li>・アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物の基本的性質が説明できる。 達成した。</li> <li>・アルケン、アルキン、芳香族化合物への求電子付加反応を理解し、反応式が書ける。 達成した。</li> <li>・有機化合物を立体的にとらえてその性質を説明できる。 達成した。</li> </ul>						
反省点	学生の理解度をみながら、授業の進度を調節しようと試みたところ、うまく進度を調節することができた。時間の都合で少し説明が走ってしまった部分があった。今年度は演習の問題量を少し減らしたところ、学生の理解度が上がったと感じた。						
来年度の計画	基本的な部分の説明時間を十分に取つつ、応用的、発展的な部分の解説の時間を増やしたい。重要な部分の説明とそうでない部分のメリハリを付けたい。演習の問題量は今年度並みしたい。声を大きくはっきり発音するように心がけ、理解できていない学生に直接声掛けをしていきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	授業内容を概ね理解してもらったようでよかった。大きな声で、重要部分はゆっくりと説明をするように心がけます。						
履修登録者数	65名	定期試験 受験者数	65名	合格者数	63名	合格率	97%